「千葉県建設技術センター構造判定部の紹介」

指定構造計算適合性判定機関公益財団法人千葉県建設技術センター構造判定部の紹介をいたします。当センターは、平成６年に土木の設計積算・施工監理等をメインに設立されました。その後、A元建築士による構造計算書偽造問題がきっかけで建築基準法が見直され、千葉県の指定を受け、平成１９年６月より構造計算適合性判定業務もすることとなりました。構造判定部の職員は、非常勤判定員70人、常勤判定員0、部長（千葉県の派遣）、判定補助員７人（千葉県、千葉市、八千代市、我孫子市、木更津市の各１名の派遣を含む）、事務嘱託１人、アルバイト１人となっています。非常勤判定員の半数の３５人は、JSCAのメンバーです。JSCA千葉様にも大変お世話になっております。

構造判定業務は、１物件を２名の判定員で通常１日で判定を行い、翌日に質疑を構造設計者に直接メール等で連絡しています。今年度は、消費税の増税の影響を受け、１２月現在で昨年の１５％増の件数が来ています。しかし、物件が多い時でも、非常勤判定員の人数を増やし、早急に判定するように心がけております。

最近の判定する構造計算書の傾向ですが、第三者がすぐに理解できるように気を使っている設計図書と、自分がわかれば他人もわかると思って作成している設計図書や構造的に問題がある設計図書があり、両極端になってきています。適合性判定に対する慣れと、いくらでも訂正できるという意識の問題のように思われます。

指摘事項を減らしスムーズに構造判定を通すためには、構造計算書に設計方針、考え方、別途検討の必要性・方針・結果などが明確にすることと思います。第三者が理解しやすい構造計算書・構造図の作成を心がけていただくとお互い助かると思います。また、構造設計者様は、社内での図書間の整合性の確認、設計方針や別途検討の記述の見直しなどを、確認申請図書を指定確認検査機関等に提出する前に行っていただけると助かります。

当センターに対するご意見がございましたら、出来る範囲で対応したいと考えております。今後とも千葉県建設技術センター構造判定部をよろしくお願いいたします。

（記：豊岡　重人）

「私の履歴書１」豊岡重人（千葉県県土整備部都市整備局建築指導課構造設備審査班班長）

ドラマの半沢直樹で話題となった出向で（公財）千葉県建設技術センターで判定補助員をしています。ドラマを見ながら子供が出向ということで心配していました。私の場合は希望してきたので左遷ではないと思っているのですが・・・。

私は大学卒業後、㈱青木建設（現在、青木あすなろ建設㈱）に入社し、大阪、神戸で現場管理をしました。最初の現場で阪神淡路大震災を経験し耐震設計の大切さを実感しました。４年半、関西で現場管理をしていましたが、当ゼネコンのつくば研究所で人員募集があり転勤しました。研究所では、RC造の補強をメインとした摩擦ダンパーを使った制震ブレースの研究員として、現在の日本大学准教授の北嶋さんの下で働きました。印象的な研究は、解体前の小学校を制震ブレースで補強し、屋上に油圧ジャッキを取付けた実大実験です。実験の計画、実施は楽しかったのですが、論文の作成はとても辛かったことを覚えています。その後、制震ブレースの取付部等の実大実験等も行い、２年半後の経験を積み構造設計部に配属になりました。研究所での経験を生かし、制震ブレースによる小中学校や共同住宅の補強の中心に構造設計をしました。新築や補強の構造設計をする中でいろいろ勉強させていただきました。今でも役に立っています。当時の上司には感謝しています。

構造設計を６年間した後、会社の合併、他の設計者の計算書に興味が出たことや家庭の事情等の理由で地元の千葉の指定確認検査機関千葉県建築住宅センターに転職しました。その時、構造設計をしてきたことの証とし、JSCA構造士と構造設計一級建築士を取得しました。JSCA構造士の面接官は、JSCA千葉の園部代表でした。ありがとうございました。構造審査では、他の構造設計者の申請図書を審査することで、設計者によって考え方が異なることも知り勉強になりました。また、適合判定制度ができ、ちょっとした断面・部材の変更でも確認申請が取下げになる状況に矛盾を感じていました。（今はその適判機関で働いているので改善しているつもりです。）

その後、ふとしたきっかけで千葉県の中途採用に合格し、建築指導課で行政の仕事を３年しました。指定確認検査機関で働いていたときに千葉県内の各市の中間検査対象建物が異なることに矛盾を感じていたので千葉県内の中間検査の対象を統一しました。また、台帳の電子化など構造とは関係ないこともしました。建築基準法は構造的観点でみると矛盾することは多く存在します。しかし、みんなで意見をすることにより、既存不適格建築物の１/２以上増築の既存遡及の緩和など建築基準法の告示の見直しなどなされています。皆さまも気付いた点がありましたら、JSCA、行政を通して国交省に意見を出してください。

現在は、千葉県建設技術センター構造判定部から千葉県県土整備部建築指導課に移動しました。今後も設計者の気持ちがわかる行政の人間として構造設計者と行政の関係を良くしていきたいと思っていますよろしくお願いいたします。乱筆で申し訳ございませんでした。

編集後記

長年に渡り、「ＪＳＣＡ・千葉 ＮＥＷＳ」の編集に尽力をされてきました（有）アルファ技研設計の安田良一氏が昨年の総会で役員を退任されました。本当にご苦労さまでした。

私は研修委員会より、いきなり安田さんの穴埋めとして広報委員に移動に成りました。

まだ新メンバーになって、一回も新聞発刊されて無く、痺れを切らしたＪＳＣＡ・千葉 園部代表より、お叱りの言葉を戴きました。何とか、総会までに間に合わせた次第です。

ＪＳＣＡ親睦旅行や総会準備に忙しい会員委員会の明智孝夫氏を広報委員として強引に引き込んで、今回の発刊に漕ぎ付けました。今年度から「広報・会員委員会」として所帯が大きくなりました。

新メンバーは西澤・明智・高橋・斉藤（利）・遠竹（新役員）・園部の６人です。

今後、更なる充実した広報活動に繋がるようにしたいと思いますので、ＪＳＣＡ・千葉の会員の皆さんのご協力宜しくお願い致します。（西澤博文）

JSCA千葉ニュース(春)

発行　一般社団法人　日本建築構造技術者協会　ＪＳＣＡ千葉（広報委員会）
〒261-0004千葉県千葉市中央区中央4丁目8番5号建築会館5F　TEL043-225-2181　FAX 043-201-1228

代表挨拶

関東甲信越支部
サテライト　ＪＳＣＡ・千葉
代表 園部　隆夫

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は大変お世話になりました。こころより御礼申し上げます。

東日本大震災より3年が経過しようとしています。被災地は、地震発生以前の日常的生活に戻れない厳しい日々がまだまだ続いている状況です。
日本経済の復調、オリンピックの東京誘致成功など、前向きな気持ちにさせてくれる話題も多い中、地震や台風、豪雨、竜巻等の自然災害により被災された多くの市民の方々を思うと、私たちは何かの役に立てる様自問自答させられる日々です。

昨年11月に施行された新耐震改修促進法は、比較的大きな面積の民間建物を積極的に耐震化し、より安全な都市環境を保持できるように配慮されたものです。私たちも積極的に耐震化に協力しなければならないと思っております。
今後３０年以内に７０％の確率で起こるとされているマグニチュード７クラスの地震に対しては、既存建物の耐震安全性だけではなく、新築建物においても、お客様のニーズを踏まえ、安心して住む事のできる、安全な都市環境を創造していく事が我々の義務と考え、日々努力をしていかなければならないと考えております。そのためには、今までの経験、知識を活かしつつ、さらに新しい情報、知識も身に付けて行かなければなりません。日々の努力が、専門家としての社会貢献の第一歩となることを、肝に銘じておく必要があります。専門家としての社会的信頼に応えられる様、常に謙虚に接して行くことを、改めて、今年の目標の一つとして掲げさせていただきます。
今後とも、行政関係の方々のご指導、ご協力を頂きながら、設計関連団体と一致協力し、且つ建設業関連団体と情報を共有しつつ、構造専門家集団としての役割を果たして行きたいと考えております。さらに、市民の方々にとって、より身近な相談相手として、広く門戸を開けて対応して行きたいと考えております。
今年も「安全で安心」な都市環境づくりに、努力してまいる所存です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

JSCA千葉役員会議事録抜粋（佐藤）

役員		
代表	園部　隆夫	
副代表	向後　勝弘	
	市原　嗣久	
業務委員会	園部　隆夫	
	飯島　宏治	
	齋藤美佐男	
	向後　勝弘	
	市原　嗣久	
総務委員会	向後　勝弘	
	佐藤　暢彦	
	椙山　誠治	
	長内　光雄	
会員委員会	明智　孝夫	
	齋藤　利彦	
研修委員会	加藤　義道	
	竹下　章治	
	西澤　博文	
技術委員会	市原　嗣久	
	冨島　誠司	
	笘谷　修作	
	榊原　裕繁	
	真崎　雄一	
	佐藤　暢彦	
若手研修推進WG	秋山　秀之	
	木村　将士	
	関　和弘	
	豊岡　重人	
広報委員会	西澤　博文	
	明智　孝夫	
HP委員会	加藤　義道	
	佐藤　暢彦	
監　事	飯島　宏治	
	齋藤美佐男	
平成25年度		
第1回；平成25年4月10日		
（1）平成25年度総会・講演会の準備等に関する件		
（2）千葉県鐵骨工業会勉強会について		
（3）避難道路沿道整備に伴う耐震診断について		
第2回：平成25年5月22日		
（1）JSCA・千葉総会準備について		
第3回：平成25年6月20日		
（1）沿道化建物の耐震化について		
（2）浦安市液状化対策について		
（3）協力会員入会の件		
第4回：平成25年7月26日		
（1）千葉県鐵骨工業会との意見交換会について		
（2）千葉県耐震協議会の法人化について		
（3）液状化の講習会の件		
第5回：平成25年9月10日		
（1）液状化に対する講習会について		
（2）JSCA千葉ニュースについて		
（3）12月宿泊研修会の件		
第6回：平成25年10月8日		
（1）勉強会について		
（2）JSCA千葉ニュース掲載原稿について		
（3）賛助会員の年会費について		
第7回：平成25年11月8日		
（1）新耐震改修促進法について		
（2）防災ボランティアネットワークについて		
（3）JSCA・千葉懇親旅行について		
第8回：平成25年12月15日		
（1）新耐震改修促進法に対する体制作りについて		
（2）天井の耐震安全性に関するDVD放映の件		
（3）Eディフェンスの実験概要紹介		
第9回：平成26年1月20日		
（1）JSCA・千葉新年会について		
（2）建築物の天井脱落対策に係る技術基準の解説講習会について		
（3）JSCA功労者について		
第10回：平成26年2月20日		
（1）鐵骨工業会の講習会について		
（2）JSCA若手向け勉強会について		
第11回：平成26年3月20日		
（1）千葉県6団体主催の建築展について		
（2）JSCA千葉総会資料の作成について		